

ウスイロヒョウモンモドキを**絶滅**から守ろう



ハチ高原には、日本で最も絶滅の危険が高いチョウ、ウスイロヒョウモンモドキがいます。

かつて中国山地で広く見ることができましたが、今ではほとんどの地域で絶滅し、兵庫、岡山、鳥取のごく狭いでわずかに5か所が残されているだけです。兵庫県の鉢伏山は日本最大規模の生息地です。

日本の絶滅のおそれがある生物についてまとめた「レッドリスト」において最も絶滅の危険が高い「絶滅危惧Ⅰ類」に、兵庫県版レッドデータブックでも最も絶滅の危険が高いAランク選定されています。

2012年頃からシカの食害でウスイロヒョウモンモドキの幼虫が食べる食草（オミナエシ）や成虫の吸蜜する花がほとんどなくなってしまい、**絶滅の危機**を迎えています。

2016年に「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（種の保存法）で、国内希少野生動植物種に指定されました。

みんなでウスイロヒョウモンモドキを**絶滅から守る**活動を進めています。にぜひご参加ください。

ウスイロヒョウモンモドキの1年

成虫は、6月下旬から7月に羽化し、すぐに交尾して、オミナエシの葉の裏に産卵し、姿を消してしまいます。孵化した幼虫は、オミナエシの葉を食べて育ち、9月下旬には休眠に入り、そのまま越冬します。翌春再びオミナエシの葉を食べて、6月に蛹になります。

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
幼虫					さなぎ	成虫	卵	幼虫			



成虫(大きさは実物大)



卵(オミナエシの葉裏)



幼虫



蛹